

部活動地域展開の 現状と今後について

R8.1.23 検討委員会

和光市教育委員会 学校教育課



部活動地域展開の目的



少子化対応

- 学校単位の部活動運営が困難
- 部員減少や指導者不足



だれでも参加

- 障害のある生徒の参加
 - 苦手な生徒の参加
 - 違う種目への参加
- ⇒誰でも参加できる環境を整備し多様な種目に触れる



地域資源の活用

- 地域の協力者の活用による、多様なスポーツや文化活動の機会の提供
- ⇒地域の大人の活躍の場



教師の負担軽減

- 部活動指導の負担軽減
- ⇒教師の働き方改革推進

1. 現状の整理と課題抽出

国や県の動向、市内の現状を把握し、部活動地域展開の方向性を探ってきた。

2. 実証事業の実施

ソフトテニス部やサッカー部をモデルケースに選び、実証事業を実施

実証事業



サッカー

- R7.12.7 第二中学校庭
- 第二中・第三中生徒7名



ソフトテニス

- R7.11.16・29 12.6
- R8.1.18（4日間）
- 第三中生徒約30名（1回平均）

■ 検討プロセスの概要



部活動地域展開実証事業



ソフトテニス

- R7.11.16・29 12.6
R8.1.18（4日間）
- 第三中生徒約30名（1回平均）



部活動地域展開実証事業



サッカー

- R7.12.7 第二中学校庭
- 第二中・第三中生徒7名



部活動地域展開実証事業



サッカー

- R7.12.7 第二中学校庭
- 第二中・第三中生徒7名

成果と課題

- ◎ 専門的な指導
- ◎ つながり（地域の大人と生徒、他校の生徒等）
- ◎ 種目のすそ野の広がり
- △ 生徒の確認（欠席等）
- △ 指導体制と組織（事務局等の必要性）
- △ 事故等への対応（今回はなかったが…）
- △ 周知等不足（保護者・教員等）



ソフトテニス

- R7.11.16・29 12.6
- R8.1.18（4日間）
- 第三中生徒約30名（1回平均）



（課題はあるものの）

**生徒にも大人にも意義があり、
今後の可能性に手ごたえ**

今後、周知やアンケート調査（生徒、保護者、指導者等）を行う。

■ 国の新ガイドライン

主要ポイント

① 休日の地域展開は全面実施へ

- ・次期改革期間内（2026～）に原則すべての学校部活動で地域展開を実現

② 地域クラブ活動を主軸へ

- ・生徒が継続的にスポーツ・文化芸術に親しめる持続可能な仕組みとして位置づけ
- ・運営主体の多様性を許容し自治体が体制整備を主導
- ・指導者の質保証（資格・人材バンク等）を明記

③ 学校部活動の位置づけ

- ・教育課程外の活動としての適正管理を強調
- ・週2日以上 の 休養日（平日1・週末1）を必須化
- ・顧問の関与は勤務管理や業務改善の観点から明確化

④ 平日の地域展開は 段階的・柔軟に

- ・国がモデル提示 → 自治体が実情に応じて対応
- ・休日→平日へ段階的展開を目指すロードマップ

⑤ 大会の在り方の抜本見直し

- ・地域クラブの大会参加を全面拡大
→ 中体連大会は地域クラブ会員も参加可（制度改訂済）
- ・教師が引率しない大会運営体制へ移行

⑥ 多様な活動の推進

- ・「部」にこだわらず新しいスポーツ・文化体験を推奨
- ・全国の約4割の自治体が新しい活動モデルを検討中

■ 国の新ガイドライン

自治体の役割

(1) 地域展開の総合調整主体としての責任

- ・ 学校担当・スポーツ・文化等振興部署・クラブ・団体等を含む協議会を設置
- ・ 休日の受け皿整備を最優先で推進

(2) 体制整備の段階的ロードマップ策定

- ・ 平日・休日別、部活動種別に段階的計画が必要
- ・ 指導者確保・施設利用・会費設定への配慮を強調

(3) 保護者・地域への周知と理解の確保

- ・ 費用・保険・指導者体制の透明性向上
- ・ 普及啓発は自治体の重要任務

■ 今後の方向性

和光市版「部活動の地域展開ロードマップ」(案)

(2026 (R8) ~2031 (R13))

基本方針

- まず休日、次いで平日へ段階的に地域展開を拡大
- 既存の部活動に加え、中学生の成長に資する視点から、幅広い活動の可能性を探っていく。

【可能性の例】

- 公民館等で行われている大人のサークル活動への参加
- プログラミングなど、これまでにない種目等の新規開拓
- ボランティア活動など、地域づくりとの関連
- 不登校生徒の参加（部活動なら参加したい！の声、居場所としての部活動）

■ 今後の方向性

和光市版「部活動の地域展開ロードマップ」

(2026 (R8) ~2031 (R13))

ガバナンス	人材	財源	広報・同意形成	評価
<ul style="list-style-type: none">●市推進本部（教育委員会）●実務ワーキング（学校×スポーツ×財政×福祉など）●学校単位のコーディネーター配置	<ul style="list-style-type: none">●指導者バンク（資格・研修履歴）●安全管理研修の必修化●生涯スポーツ・大学連携で人材循環	<ul style="list-style-type: none">●国の実証・補助の活用、スポーツくじ（TOTO）助成、自治体補助、受益者負担（上限目安設定）、企業協賛の組合せ。	<ul style="list-style-type: none">●保護者・地域説明会●FAQ・費用・安全の見える化●相談窓口の一元化	<ul style="list-style-type: none">●参加率・継続率・安全指標・満足度をKPI化し年次評価、公表、改善

■ 今後の方向性

和光市版「部活動の地域展開ロードマップ」 (2026 (R8) ~2031 (R13))

【2026 (前期1年目)】

- 市推進本部・協議会の再編
(教育・スポーツ横断)
- モデル地区・種目の選定
(例：サッカー・ソフトテニス)
- 受け皿の組成 (運営団体の役割分担合意)
- 保護者説明と会費水準の仮設定

【2027 (前期2年目)】

- 休日の地域展開を全中学校で着手 (原則：全種目のうち優先種目から)
- 指導者バンクと研修の整備
- 事故・保険・危機管理マニュアルの全校共通化
- 自治体補助 + 受益者負担の標準モデルを提示

【2028 (前期3年目)】

- 休日の地域展開を原則全種目で実装
- 広域合同 (学校間合同・近隣市連携) の運用開始
- 大会参加の新ルートを整備 (地域クラブ経由)
- 会費減免・経済的支援スキームの本格運用。

■ 今後の方向性

和光市版「部活動の地域展開ロードマップ」

(2026 (R8) ~2031 (R13))

【2029（後期1年目）】

- 平日の一部活動で地域展開の試行（週1回など）
- 学校施設の優先枠と鍵管理の標準化
- データに基づく参加状況・満足度・安全指標の公開（年次レポート）

【2030（後期2年目）】

- 平日の地域展開を拡大（種目・頻度を段階的に）
- 指導者の処遇多様化（謝金・委託・兼業）
- 地域交通・施設予約の最適化（デジタル活用）

【2031（後期3年目）】

- 休日は全校・全種目で地域展開を定着、平日は実情に応じた複線モデルで運用
- 最終評価と次期計画への接続